

6日 金曜

士師



知らないほかの世代が起こった。

2:1 さて、主の使いがギルガルからボキムに上って来て言った。「わたしはあなたがたをエジプトから上らせて、あなたがたの先祖に誓った地に連れて来て言った。『わたしはあなたがたとの契約を決して破らない。

2 あなたがたはこの地の住民と契約を結んではならない。彼らの祭壇を壊さなければならない。』ところが、あなたがたはわたしの声に聞き従わなかった。なぜこのようなことをしたのか。

3 それゆえわたしは言う。『わたしはあなたがたの前から彼らを追い出さない。彼らはあなたがたの敵となり、彼らの神々はあなたがたにとってわなとなる。』」

4 主の使いがこれらのことばをイスラエル人全体に語ったとき、民は声をあげて泣いた。

5 それで、その場所の名をボキムと呼んだ。彼らはその場所で主にいけにえをささげた。

6 ヨシュアが民を送り出したので、イスラエル人はそれぞれ地を自分の相続地として占領するために出て行った。

7 民は、ヨシュアの生きている間、また、ヨシュアのあとまで生き残って主がイスラエルに行われたすべての大きなわざを見た長老たちの生きている間、主に仕えた。

8 主のしもべ、ヌンの子ヨシュアは百十歳で死んだ。

9 人々は彼を、エフライムの山地、ガアシュ山の北にある彼の相続の地境、ティムナテ・ヘレスに葬った。

10 その同世代の者もみな、その先祖のもとに集められたが、彼らのあとに、主を知らず、また、主がイスラエルのためにされたわざも

ギルガルはイスラエルが主に従って割礼を実行した地であり、その信仰に主は答えてエリコでの大勝利を与えてくださいました。しかしボキムでは全く違う状況で、イスラエルは偶像異教の民を受け入れるだけでなく、その祭壇までも残して神に背いたのです。

「彼らの神々はあなたがたにとってわなとなる」というのはわかっていたはずでしたが、神様から改めて聞いたとき、初めてそれを実感し泣いたのです。

神を知っていても、なすべきことを知っているも「なんとかなるだろう」と、従わないでいることもあるのではないのでしょうか。主の御心と、その先にあるものをしっかりと見据える必要があります。

ヨシュアは立派な指導者でしたが、しかし人間であってやがては去って行きました。それでまた民は神とそのわざを忘れてしまいました。やはり人の指導力よりも神ご自身に従うことが必要です。今は神のことばである聖書を読み、神様のご人格と御心に触れて、従うことです。指導者は自分に従うよりも神様に従うようにと、導かなくてはなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

